

イノベーション創出に資する次世代研究者エンパワメントプログラム

課題解決型 PBL演習

各分野の研究者が互いの知識を持ち寄って刺激し合い、総合的能力を高め合う

PBL = Project Based Learning

【課題発見力】

実社会の正解なき問いに対してビジョンを描き、主体的に課題を見つけ出す

【課題解決力】

課題を解決に導く

【実践力】

専門分野の異なる他者と協働を重ね、粘り強く解決に取り組む



●ファシリテーター

名古屋市立大学
高等教育院 教授 鵜飼 宏成

(株)住信基礎研究所（現・三井住友トラスト基礎研究所）で複数の調査プロジェクトに関わり、10年後2000年に愛知学院大学に転職。同大学経営学部教授、地域連携センター所長を歴任し、2019年4月より名古屋市立大学大学院経済学研究科教授、2025年4月より現職。

専門は、アントレプレナーシップ教育（起業家教育）の研究と実践、起業家論、ベンチャービジネス論。あわせて、特定非営利活動法人起業支援ネット及び一般財団法人中部圏地域創造ファンドで理事を務める。

参加者の声

異なる分野同士で交流し、異分野連携の体験ができた良い機会だった。班によって多種多様な発表がされており、答えのない課題に対して色々な角度から見ていくことの重要性を感じた。

複数の意見をすり合わせながら方向性を定めていく過程を通じて、コミュニケーションの重要性を改めて認識した。

他研究科の学生とコミュニケーションをとることが出来、またグループワークを通してチームの中での動き方を考えられるいい機会だった。

実際の課題に対して主体的に取り組む姿勢の大切さを学ぶことができた。グループでのやり取りを通して、他者の意見を尊重しながら自分の考えや意見を伝えることの難しさ、その大切さを学んだ。

チームで課題解決に取り組むことを通じて、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身につけることができるとても良い機会になった。ぜひこれからもこういった演習に参加してみたいと感じる内容だったと思う。